



JP

取扱説明書



FEEDBACK DESTROYER PRO FBQ2496

Automatic and Ultra-Fast Feedback Destroyer/Parametric EQ
with 40 FBQ Filters and 96 kHz Audio Performance



目次

ありがとう	2
安全にお使いいただくために	3
法的放棄	3
限定保証	3
1. はじめに	4
2. フィードバックはどのように生じるのか	4
3. サービスメニューと接続	5
4. FBQ2496 のフィルター	7
5. 接続の可能性	9
6. 調節	10
7. MIDI 制御	10
8. インストール	12
9. テクニカルデータ	13

ありがとう

FEEDBACK DESTROYER PRO FBQ2496 をお買い求めいただくとともに、弊社を信用していただき誠にありがとうございます。
FEEDBACK DESTROYER PRO により、本質的なものに集中するために超音波処理システムをコントロールすることに役立つ機器を獲得しました: あなたの音楽。

安全にお使いいただくために



注意

感電の恐れがありますので、カバーやその他の部品を取り外したり、開けたりしないでください。高品質なプロ用スピーカーケーブル (¼" TS 標準ケーブルおよびツイスト ロッキング プラグケーブル) を使用してください。



注意

火事および感電の危険を防ぐため、本装置を水分や湿気のあるところには設置しないで下さい。装置には決して水分がかからないように注意し、花瓶など水分を含んだものは、装置の上には置かないようにしてください。



注意

このマークが表示されている箇所には、内部に高圧電流が生じています。手を触れると感電の恐れがあります。



注意

取り扱いとお手入れの方法についての重要な説明が付属の取扱説明書に記載されています。ご使用前に良くお読みください。



注意

1. 取扱説明書を通してご覧ください。
2. 取扱説明書を大切に保管してください。
3. 警告に従ってください。
4. 指示に従ってください。
5. 本機を水の近くで使用しないでください。
6. お手入れの際は常に乾燥した布巾を使用してください。
7. 本機は、取扱説明書の指示に従い、適切な換気を妨げない場所に設置してください。取扱説明書に従って設置してください。
8. 本機は、電気ヒーターや温風機器、ストーブ、調理台やアンプといった熱源から離して設置してください。

9. 二極式プラグおよびアースタイプ (三芯) プラグの安全ピンは取り外さないでください。二極式プラグにはピンが二本ついており、そのうち一本はもう一方よりも幅が広がっています。アースタイプの三芯プラグには二本のピンに加えてアース用のピンが一本ついてます。これらの幅の広いピン、およびアースピンは、安全のためのものです。備え付けのプラグが、お使いのコンセントの形状と異なる場合は、電器技師に相談してコンセントの交換をして下さい。

10. 電源コードを踏みつけたり、挟んだりしないようご注意ください。電源コードやプラグ、コンセント及び製品との接続には十分にご注意ください。

11. すべての装置の接地 (アース) が確保されていることを確認して下さい。



12. 電源タップや電源プラグは電源遮断機として利用されている場合には、これが直ぐに操作できるように手元に設置して下さい。

13. 付属品は本機製造元が指定したもののみをお使いください。

14. カートスタンド、三脚、ブラケット、テーブルなどは、本機製造元が指定したもの、もしくは本機の付属品となるもののみをお使いください。カートを使用しての運搬の際は、器具の落下による怪我に十分ご注意ください。

15. 雷雨の場合、もしくは長期間ご使用にならない場合は、電源プラグをコンセントから抜いてください。

16. 故障の際は当社指定のサービス技術者にお問い合わせください。電源コードもしくはプラグの損傷、液体の装置内への浸入、装置の上に物が落下した場合、雨や湿気に装置が晒されてしまった場合、正常に作動しない場合、もしくは装置を地面に落下させてしまった場合など、いかなる形であれ装置に損傷が加わった場合は、装置の修理・点検を受けてください。



17. 本製品に電源コードが付属されている場合、付属の電源コードは本製品以外ではご使用いたしません。電源コードは必ず本製品に付属された電源コードのみご使用ください。

18. ブックケースなどのような、閉じたスペースには設置しないでください。

19. 本機の上に点火した蝋燭などの裸火を置かないでください。

20. 電池廃棄の際には、環境へのご配慮をお願いします。電池は、かならず電池回収場所に廃棄してください。

21. 本機器は熱帯気候および / または温帯気候下でご使用ください。

法的放棄

ここに含まれる記述、写真、意見の全体または一部に依拠して、いかなる人が損害を生じさせた場合にも、MUSIC Group は一切の賠償責任を負いません。技術仕様、外観およびその他の情報は予告なく変更になる場合があります。商標はすべて、それぞれの所有者に帰属します。MIDAS、KLARK TEKNIK、LAB GRUPPEN、LAKE、TANNOY、TURBOSOUND、TC ELECTRONIC、TC HELICON、BEHRINGER、および BUGERA は MUSIC Group IP Ltd. の商標または登録商標です。© MUSIC Group IP Ltd. 2017 無断転用禁止。

限定保証

適用される保証条件と MUSIC Group の限定保証に関する概要については、オンライン上 music-group.com/warranty にて詳細をご確認ください。

1. はじめに

FBQ2496 は、市場において最速 (>0,2 秒) でしかも同時に比類のない 96 kHz フィードバック抑制器です。超高速の知的フィードバック認識アルゴリズムによって、チャンネルごとに 20 フィードバック周波数まで自動的に場所を突き止め、これを高速のノッチフィルターで抑制することができます。一方、使用信号は、実際に侵害されません。

その際 “Set-and-Forget” および Panic ボタンは、とても簡単で即時のフィードバック抑制を保証します。Autoモードで Mix が継続的に監視され、フィルターが自動的に調節される一方、手動モードでは周波数、帯域幅そして増幅/減少において調節可能なフルパラメータフィルタを 40 まで設定できます。開いた MIDI-Architecture は、将来のソフトウェアアップデートとデジタル式装置との柔軟なコミュニケーションを可能にします。様々なモードで異なった状況に適用する枠組みで柔軟に反応することができます。しかし、FBQ2496 は、さらに創造的な音響を形成する道具としてもスタジオに提供されます。

1.1 ご使用の前に

1.1.1 出荷

FBQ2496 は、安全な輸送のために工場出荷時に十分な注意を払って梱包されていますが、万が一包装ダンボールに損傷が見られた場合には、装置外面部の損傷もご確認ください。

◆ 装置が万一損傷している場合には、保証請求権が無効となる恐れがありますので、製品を当社へ直接返送せず、必ず販売代理店および運送会社へご連絡下さい。

◆ 本製品の保管や運送の際には、製品への損傷を避けるため、常にオリジナルの梱包を使用するようにしてください。

◆ 製品および梱包材などは、お子様の手の届かないところに保管してください。

◆ 梱包材などの環境保護に適した廃棄を心がけてください

1.1.2 スタートアップ

FBQ2496 の過熱を防ぐため、十分な換気の確保に留意し、装置を暖房などのそばに接地することはお避け下さい。

◆ 安全装置が故障している場合は、正しい値の安全装置と交換して下さい。設定値に関しては「テクニカル・データ」の項目をご覧ください。

電源への接続には付属の標準型 IEC コネクター付きケーブルを使用して下さい。このケーブルは必要な安全基準を満たしています。

◆ すべての装置の接地（アース）が確保されていることを確認して下さい。使用者自身の安全のため、電源ケーブルや装置自体のアースを取り外したり使用不能とすることは絶対にお止め下さい。

1.1.3 オンライン登録

ご購入後は、新しい BEHRINGER 機器をぜひご登録ください。http://behringer.com にアクセスして、保証条件をご確認ください。

BEHRINGER 販売代理店がお近くにない場合は、behringer.com の "Support" に記載されている該当地域の BEHRINGER 代理店までお問い合わせください。該当地域が記載されていない場合は、behringer.com の "Support" にある "Online Support" で問題を解決できるかどうか確認してください。または、製品を返品する前に、behringer.com でオンライン保証請求の手続きを取ってください。

購入情報と機器を登録しておくことで、お客様からの修理のご依頼を迅速かつ効率的に処理することができます。

製品の登録にご協力ください。

2. フィードバックはどのように生じるのか

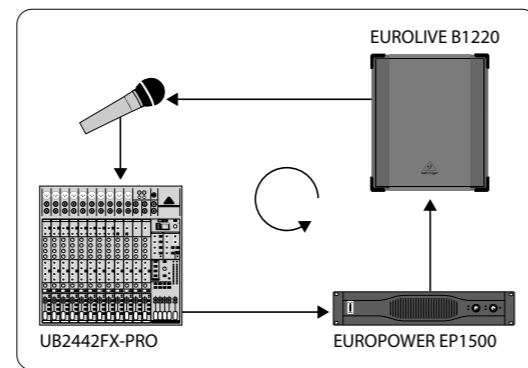


図 2.1: フィードバックのループの発生

Phase フィードバックのループが発生するのは、マイク信号がアンプシステムにより再生されこの信号が再度（同じ位相状態）マイクにより取り入れられ、いま一度強められ再生される場合です。このフィードバックループは、場合によってさらに高く揺れ動きます。

超音波には二つの本質的な領域があります。そこでは再カップリングが生じることもあります:

- Frontmix (あるいはまた F.O.H. = "Front of House") は、ミキサーから一つ以上のアンプを聴衆のために意図されたラウドスピーカーに届ける Mix を特徴づけています。
- Monitormix として同様にミキサーから一つ以上の舞台モニターを制御する Mix を特徴づけます。舞台モニターは、表面の超音波に対して、個々の音楽の超音波処理に役立ちます。
- ◆ 大きな音量は、聴力や装置を侵害する可能性があることを示唆しておきます。音量が適しているかどうか常に注意してください。

3. サービスメニューと接続

3.1 フロントサイド

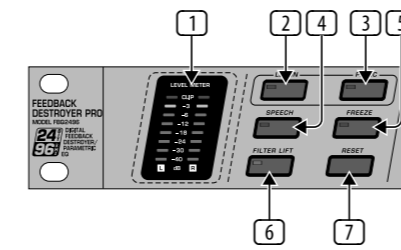


図 3.1: FBQ2496 の左側にあるサービスメニュー

① LEVEL METER

LEVEL METER ディスプレイを使って入力レベルを監視します。その際、チャンネル 8 つの LED が使用できます。Clip-LED の点灯は、FBQ2496 入力時にゆがみが生じることがあることを信号で合図しています。点灯している場合は、入力信号のレベルを制限してください。

② LEARN ボタン

短くボタンを押すと (LED が点灯する)、FBQ2496 は LEARN モードとなります。つまり、機器は最大速度ですぐに危険な周波数を探し、必要な分だけ多くのシングルショットフィルターを設定します (そのために、空間は音楽信号とノイズ信号で超音波処理されます)。その上、回転式ハンドルにより多くのシングルショットフィルター (チャンネルごとに最大 20) が手動で固定できます (4.1 章を参照すること)。ボタンが 1 秒以上押されると (LED が点灯する)、フィードバックを生成するために FBQ2496 は益々大きなインパルスを作ります。再カップリングは、FBQ2496 の入力時に現れて、そこで認識され抑制されます。このモードは、AUTOLEARN と呼ばれます (4.1 章を参照すること)。

③ PANIC

行われている間に予期せぬフィードバックが現れたら、PANIC ボタンを押すと良いでしょう。ボタンが押されている間 (最大 1 秒)、機器は特に速く再カップリング周波数を求めてこれを抑制します。

④ SPEECH

SPEECH ボタンを押すと、フィードバック抑制の感度が上昇します。つまり、これを押すことで、FBQ2496 はより素早くフィードバック周波数を検知し、より強力なカットフィルターが作動するのです。

ディストーションギターによって発生するフィードバックとは異なり、人間の発声からは、誤ってフィードバックと認識されるような音声信号は滅多に発せられません。そのため、このモードは、特にスピーチ (発声) のみが伝達される状況に最適です。したがって、音量も十分に上げることができます。

⑤ FREEZE

FBQ2496 をうまく調節できるようになったら、FREEZE を押してこれを維持することができます。全てのシングルショットおよび自動フィルターは、FREEZE ボタンが新たに押されるまでその調節を維持します。

⑥ FILTER LIFT

いわゆる “フィルターリフティングタイム” は、その値が戻されるまで、調節された自動フィルターがどのくらいの間無効でもよいのかという情報を提供します。FILTER LIFT ボタンを短く押すと、この時間は回転ハンドルで調節することができます。以下のような時間が可能です: 0 min、1 min、5 min、10 min、30 min、60 min。

⑦ RESET

RESET ボタンを短く押すと、自動的に設定されるフィルター全てが消されます。ボタンをより長く押すことによって、付加的にシングルショットフィルターが消されます。PEQ モードではボタンを短く押すことにより選択されたフィルターが消されます。ボタンを長く押すと、パラメータフィルターが一度消されます。

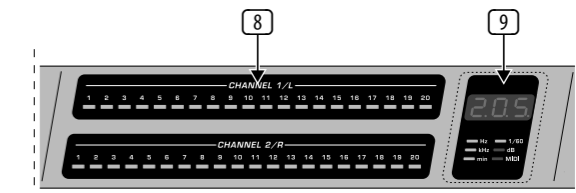


図 3.2: FBQ2496 のステータス表示と LED ディスプレイ

⑧ ステータス表示

FBQ2496 は全体で 40 フィルター、つまり、チャンネルごとに 20 フィルター処理できます。ステータス表示により快適に目覚めます。1 つの LED の連続点灯には以下のような意味があります:

- フィルターが「セット」され、フィードバックをカットしている。または:
- フィルターはパラメトリック EQ モードで作動中 (ゲイン \neq 0 dB)

周期的に点滅する LED は、PEQ モードで選ばれたフィルターに信号で合図します。

⑨ LED ディスプレイ

3 桁の数字による表示は、変更するパラメータの絶対値を示しています。個々のパラメータをどのように調節するのかについては、第 4 章から読み取ってください。

- Hz または kHz が、フィルターの間中周波数を変更する際に点灯します。
- min 表示は、Filter Lift-time を調節すると、点灯します。
- 1/60-LED は、0,1 より小さいフィルター階級を調節すると、点灯します。調節可能な値は、1/60、2/60、3/60、4/60 そして 5/60 です (6/60 = 0,1)。
- フィルターの増幅減少について調節をすると dB-LED が点灯します。
- MIDI 表示は、機器が MIDI データを受け入れるとすぐに点灯します。

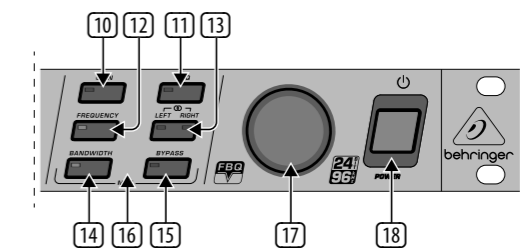


図 3.3: FBQ2496 の右側にあるサービスメニュー

⑩ GAIN

GAIN ボタンは、PEQ において dB において選ばれたフィルターを増やしたり減らしたりする規定の可能性を提供します (0,5 dB ペースで +15 dB から -15dB へ、1dB のペースで -16 から -36 dB)。回転式ハンドルで調節された dB 値がディスプレイに表示されます。

11 PEQ

PEQ ボタンを長く押し (PEQ ボタンの LED が点灯する)、回転式ハンドルで多くのパラメータフィルターを調節することができます。これらは、常に 20 フィルターで始まり、1 フィルターまで徐々に満たされます (図 4.2 を参照すること)。同時に調節されたシングルショットフィルターが表示されます。PEQ ボタンを短く押し (PEQ ボタンの LED が点灯する)、回転式ハンドルで個々のフィルターを選択することができます。その際、選ばれたフィルターの番号がフィルターに表示され、個々のフィルター LED が点灯します。すると、パラメータの増幅、帯域幅そして中間周波数が表示できます。

◆ **パラメータフィルターのパラメータだけが手動で調節されます。シングルショットフィルターと自動フィルターの調節は、単に表示されるだけです。**

12 FREQUENCY

FBQ2496 が PEQ モードにあると (PEQ ボタンの LED は点灯する)、個々のパラメータフィルターの中間周波数を調節することができます。中間周波数を処理できるようにするために、FREQUENCY ボタンを動かしてください。調節可能な周波数領域は、20 Hz から 20 kHz です。

13 LEFT-RIGHT

LEFT-RIGHT ボタンにより編集したいチャンネルを選ぶことができます。FBQ2496 がステレオモードにあるならば、両方の LED の点灯によりはっきりとする両チャンネルを選ぶことができます。このモードでは単にパラメータはチャンネルのために調節されます。そして、他のチャンネルのために直接受け入れられます。LEFT-RIGHT ボタンが長く押されると、両方のチャンネルは互いに区別されます。すると、両方のチャンネルのために異なるパラメータを調節することができます。両方のチャンネル間のスイッチの変更は、LEFT-RIGHT ボタンを短く押しすることによって行われます。LEFT-RIGHT ボタンを新たに長く押しすることにより、ステレオカップリングが再び作られて、アクティブなチャンネルの調節が他のチャンネルにコピーされます。

◆ **モノ操作またはステレオ操作の調節は、FBQ2496 によって貯えられ、スイッチを切ってから新たにスイッチを入れると再び荷電します。**

14 BANDWIDTH

BANDWIDTH ボタンにより選ばれたパラメータフィルターの帯域幅 (Q ファクター/階級) を規定してください。調節されたフィルターの階級は、1/60 オクターブから 10 オクターブまでの領域を包括しています。そのためには、FBQ2496 が PEQ モードになければなりません (PEQ ボタンの LED は点灯する)。

15 BYPASS

BYPASS ボタンを長く押し Hard Bypass をアクティブにしてください。それにより機器の入力は、直接出力に置かれ、フィルターは回避されます。

◆ **BYPASS 機能をできるだけ用心して使用してください。フィルターが非アクティブだと抑制された再カップリングが再び自由になるからです。**

16 MIDI

BANDWIDTH ボタンと BYPASS ボタンを同時に押しすと、MIDI メニューにいたります (療法のボタンの LED が点灯します)。そこでは MIDI はスイッチを入れたり消したりでき、MIDI チャンネルが選択されます (第 7 章を参照すること)。

17 回転式ホイール

無限の回転式ホイールを使用して、選ばれたパラメータを変更することができます。時計回りにホイールを回して、値を上げてください。半時計回りに回すと、値が小さくなります。

18 POWER

POWER スイッチにより、FEEDBACK DESTROYER PRO の操作を始めてください

◆ **注意: POWER スイッチを切ただけでは、電源が完全に切れたことにはなりませんので、長い間本ユニットを使用しない場合は電源コードをコンセント (主電源) から抜いてください。**

3.2 リヤサイド

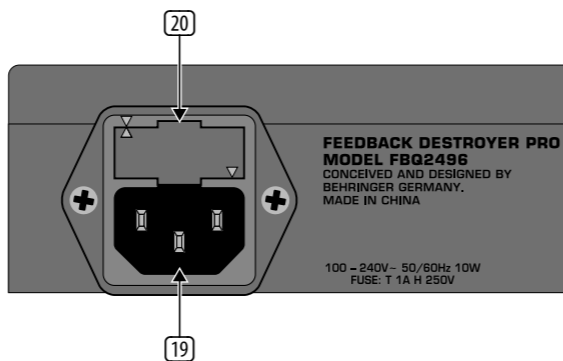


図 3.4: 配電網へ接続、ヒューズホルダーそして し番号

19 電源への接続には標準 コネクターを使用します。この装置には適合する電源コードが付属しています。

20 FBQ2496 のヒューズホルダーでは、ヒューズを交換することができます。古いヒューズは、必ず同じタイプのヒューズと取り替えてください。ヒューズについては第 7 章「テクニカルデータ」に記載があります。

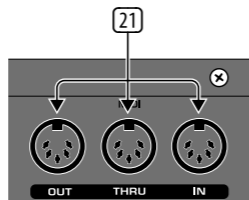


図 3.5: FBQ2496 の MIDI 接続ソケット

21 FBQ2496 は多彩な MIDI インプリメンテーションを備え (ドイツ語または英語版の取扱説明書を参照してください)、基本的な MIDI IN MIDI-OUT コネクターのほかに、MIDI コマンド中継用に MIDI-THRU コネクターも用意されています。

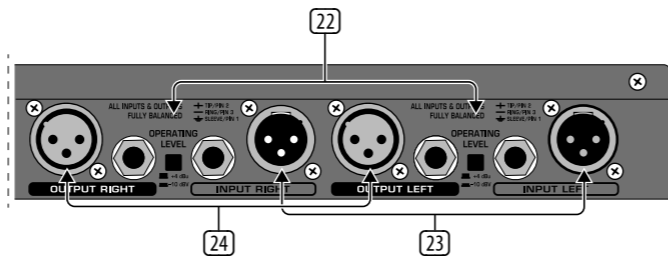


図 3.6: FBQ2496 のリヤサイドにある接続

22 OPERATING LEVEL スイッチは FBQ2496 をホームレコーディングレベル (-10 dB) またはスタジオレベル (+4 dB) の 2 つの作動レベル間で切り替えるために使用されます。この切り替えによりレベルディスプレイは自動的にそれぞれの基準レベルに設定され、FEEDBACK DESTROYER PRO の作動を最適化することができます。

23 INPUT LEFT/RIGHT

これは、FBQ2496 の対称の入力です。それらは、6,3-mm ジャックと XLR 接続としてあります。

24 OUTPUT LEFT/RIGHT

FBQ2496 の両方の出力は、同様に対称のジャックと XLR ソケットとしてとしてあります。

4. FBQ2496 のフィルター

FBQ2496 のフィルターは、特に細い帯域幅で調節できます。それにより、音楽の響きはほとんど影響されません。

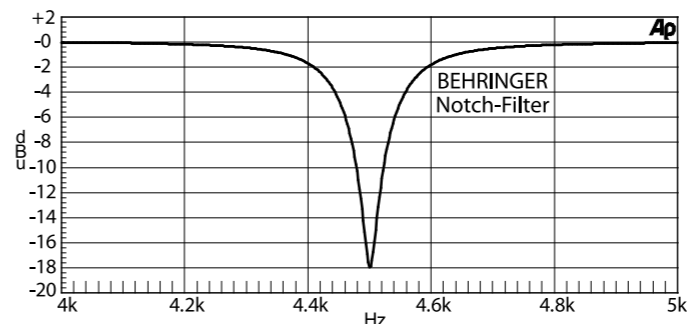


図 4.1: とても細い帯域幅のフィルターの曲線

1. POWER ボタンで機器のスイッチを入れてください。ディスプレイに *run* (run) が表示されます。
2. FBQ2496 をステレオモードで使用するか二重モードで使用するか決めてください。(13)。

以下では、FEEDBACK DESTROYER PRO の両方のチャンネルが連結していることが想定されています。

チャンネルごとに 20 フィルターが シングルショットフィルター、自動およびパラメータフィルターに分けることができます (第 4.2 章を参照すること)。

◆ **3 つのフィルタータイプは合わせるとチャンネルごとに常に 20 となります!**

◆ **固定フィルターおよびパラメータフィルターが 0 の場合、FBQ2496 は、チャンネルごとに 20 個の自動フィルターで動作します。**

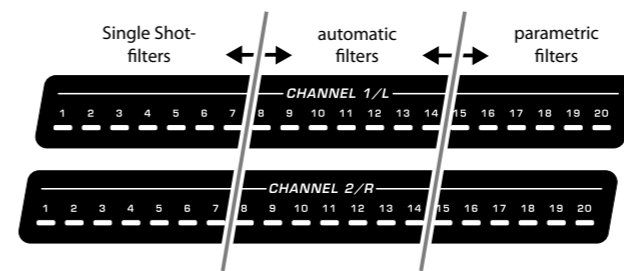


図 4.2: FBQ2496 の様々なフィルタータイプ (ここはステレオ領域)

4.1 シングルショットフィルターの調節

まだシングルショットフィルターが設定されていなければ、FBQ2496 は調節後自動的に危険な周波数を探し、必要なだけ多くのフィルターを割り当てます。

シングルショットフィルターは、特に信頼して快適に調節することができます。そのために FBQ2496 の LEARN 機能または AUTOLEARN 機能のどちらかを使用してください。

◆ **LEARN 機能または AUTOLEARN 機能のどちらかで操作できるように、FBQ2496 を超音波処理装置に接続する必要があります。**

◆ **LEARN 機能または AUTOLEARN 機能の使用は、コンサートや録音にも使用される超音波処理装置や空間が問題の場合に限って役に立ちます。**

LEARN モード

1. LEARN ボタンを短く押ししてください。ボタンの LED が点灯し、PANIC ボタンの LED が点滅します。ディスプレイには、現在調節されているシングルショットフィルターの数が表示されます。(5 0 = 調節されたシングルショットフィルターなし、520 = シングルショットフィルターとして全てのフィルターが作動します)。FBQ2496 は、すぐに最大速度で危険な周波数を求め、必要なだけ多くのシングルショットフィルターを設定します (そのために、空間は信号で超音波処理されるはず)。場合によっては、ディスプレイに表示されるフィルター数が上がります。
2. 回転式ハンドルでシングルショットフィルターの数もあとから変更できます。
3. LEARN ボタンを新たに短く押しして上記の過程を終了してください。

AUTOLEARN モード

この機能は、シングルショットフィルターを自動的に調節するためにライブコンサート前に提供されます (装置から「音がします」)。

1. LEARN ボタンを1秒以上押ししてください。その結、以下のよう
にこの過程は自動的に進んでいきます。

- ボタン上の LED が点灯します。
- 全てのシングルフィルターと自動フィルターは、元の場所に戻されます。
- ディスプレイで16秒カウントダウンされます (L16, L15, ..., L1, L0)。

FBQ2496 は、-15 dB レベルの刺激を生成し、フィードバックを引き起こします。FBQ2496 の全体の増幅は、ステップごとに 0 dB から 15 dB 上がります。FEEDBACK DESTROYER PRO は、危険な周波数を確認し、これを細い帯域幅で下げます。

2. シングルショットフィルターの貯蔵庫に危険な周波数が互いに貯えられて下げられます。
3. 時間が経過するとこの過程は終了します。LEARN ボタン上の LED が消えてディスプレイに *run* が表示されます。

◆ **調節されたシングルショットフィルターの周波数は、後から手動で変更できません。フィードバックのわずかな周波数の変更は、自動的に後から行われます。減少も常に与えられた状態に適應します。**

- ◇ シングルショットフィルターと自動フィルターの調節に満足できるならば、これは、FREEZE ボタンを押すと維持できます。ディスプレイには以下のように表示されます: -。

4.2 パラメータフィルターの調節

FBQ2496 の 2、3 または全部で 40 のフィルターは、パラメータフィルターとして設定できます。これらは目標に合わせて正確に調節する必要があります。パラメータ周波数、帯域幅そして増幅/減少は自由に処理できます。

パラメータフィルターの数を選択します。

1. PEQ ボタンを長く押ししてください。PEQ ボタンの LED が点灯し、ディスプレイには現在調節されている数のパラメータフィルターが表示されます。(P 0 = 調節されたパラメータフィルターなし、P 20 = 全てのフィルターがパラメータ的)。付加的に設定されたシングルショットフィルターに LED が点灯します。
2. 回転式ハンドルでパラメータフィルターの数を変更できます。ディスプレイに調節されたパラメータフィルターの数が表示され、ステータス表示 (8) にある対応する LED が点灯します。
3. PEQ ボタンが新たに短く押しして経過を終了してください。

- ◇ ステータス表示に増幅 / 減少が 0 でない LED パラメータフィルターだけが現在点灯しています。

周波数、帯域幅、増幅率を調節します。

個々のパラメータフィルターによって以下のように進めてください:

1. PEQ ボタンを短く押します。PEQ ボタン上の LED が点灯します。ディスプレイに選ばれたフィルターの番号が表示されます (例えば、1 9)。

2. 回転式ハンドルで値が変更されるべきパラメータフィルターが選択されます。

- ◇ 回転式ハンドルで個々のフィルターが選択できます! シングルショットフィルターと自動フィルターのパラメータが表示され、変更できなくなります!

3. FREQUENCY ボタンを押すと (ボタン上の LED が点灯する)、フィルターの間周波数は、回転式ハンドルにて調節できます。ディスプレイとディスプレイに並ぶ Hz-LED と kHz-LED によって、調節された中間周波数は正確に読み取ることができます。

ご希望の周波数を正確に処理できるように、フィルターの帯域幅が意図的に変更されることがあります。

4. BANDWIDTH ボタンを短く押ししてください。

5. 回転式ハンドルを回して、フィルターの帯域幅を変更することができます。0,1 以下の階級が調節されると、1/60 が点灯します (1 x 1/60, 2 x 1/60 ... 5 x 1/60)。より大きな帯域幅では値が直接ディスプレイに表示されます (0.1, 0.2 ... 1.0, 1.1 ... 10.0)。

パラメータフィルターは、調節された周波数の増幅または減少が入力された場合、初めてアクティブになります:

6. ボタン GAIN を短く操作すると、ボタンの上の LED が点灯します。同時に dB-LED が 3 桁ディスプレイの下で点灯します。

7. 増幅 / 減少は、回転式ハンドルによって 15 dB から 36 dB まで調節できます (0,5 dB ステップにおいて +15 dB から -15 dB まで、1dB -ステップにおいて -16dB から -36 dB)。ディスプレイに表示されます。

- ◇ FBQ2496 のディスプレイは 3 桁を示します。正の値は、問題なく表示できます (14, 14.5, 15)。負の値については、完全に記載するために 4 桁表示しなければなりません。ディスプレイが 3 桁だけを認めるので、それに続く桁は省略され、小数点によってのみ最初の二つの数字の後に記号化されます (-15, -14.(5), -14, -13.(5))。

8. PEQ ボタンを新たに短く押しして経過を終了してください。

- ◇ ステータス表示において、増幅/減少が 0 によって区別されるフィルターが表示されます。

4.3 自動フィルターの調節

自動フィルターの数は、別途に調節されません。固定フィルターとパラメータフィルターの数から生じます (図 4.2)。

- ◇ 自動フィルターの数を減らすために、シングルショットフィルターまたはパラメータフィルターの数を増やしてください。

自動フィルターは、コンサートまたは録音の間に必要ならば調節できます。その際、FBQ2496 が常に新しく変更された状況に反応できることが、もちろん望ましいことです。これを保証するためには、自動フィルターが規定の時間のみアクティブで、引き続き新しい周波数で調節できるように再度 0 に設定されるようにしなければなりません。

いわゆる“フィルターリフティングタイム”は、その値が戻されるまで、調節された自動フィルターがどのくらいの間無効でもよいのかという情報を提供します。このフィルターリフティングタイムは、FBQ2496 において調節することができます。

1. FILTER LIFT ボタンをおしてください。ボタン上の LED が点滅します。
2. フィルターリフティングタイムのスイッチを切ることができます (OFF) または回転式ハンドルにて値 1 min、5 min、10 min、30 min または 60 min が調節できます。
3. FILTER LIFT ボタンを新しく押しすると、このメニューから再び離れ LED が点滅しなくなります。
4. フィルターリフティングタイムが調節されると (オフにしない)、ボタン上の LED が点灯します。

- ◇ シングルショットフィルターと自動フィルターの調節に満足できれば、FREEZE ボタンを押して維持することができます。ディスプレイには以下のように表示されます: -。

5. 接続の可能性

- ◇ FEEDBACK DESTROYER PRO はマイクを直接接続するにはデザインされていません。この目的には、マイクプリアンプを内蔵する BEHRINGER SHARK DSP110 の使用をお奨めします。

- ◇ どんな装置もマイクの誤ったポジションの修正をすることはできません。マイクの設置の際にはマイクの指向特性とフィードバック特性に注意しましょう。

5.1 モニターによる FBQ2496

2チャンネル構造により、FBQ2496 は、2つのモニターで使用する上で理想的な機器といえます。そのために、図 5.1 にあるように、ミキサーの Pre-Fader Aux 送信-出力を FBQ2496 の入力と接続してください。モニターの最終段階の出力は、引き続き FBQ2496 の出力と結びつけられます。

モニターで FBQ2496 を使用することにより、音量をはっきりと上げることができます。

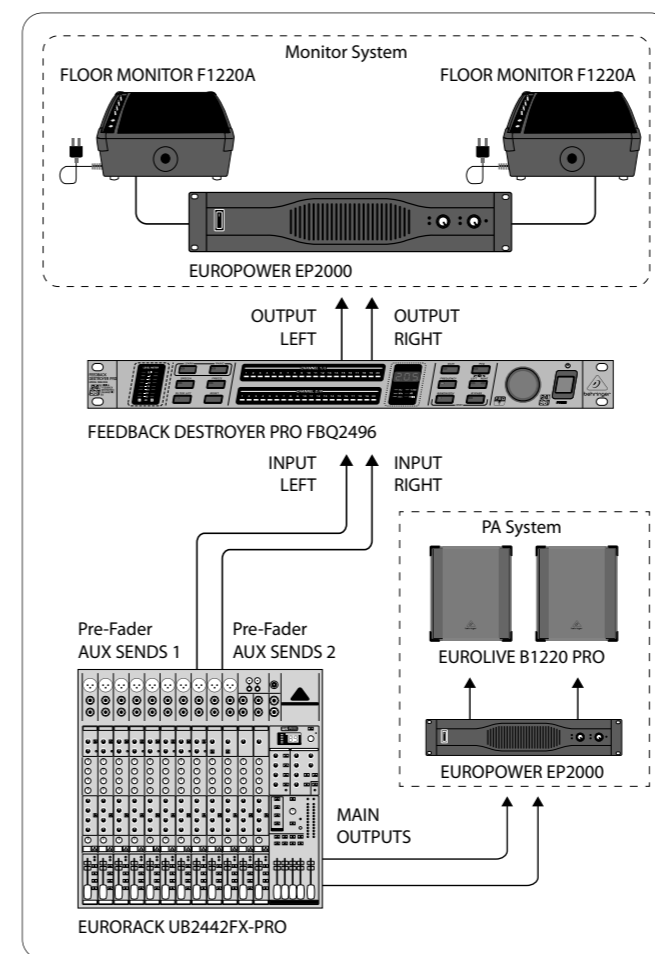


図 5.1: モニターによる FBQ2496 の使用

5.2 チャンネル挿入による FBQ2496

除去されるフィードバックをノイズに限り、意図的に作られたフィードバック (例えばギターなどの) を残すため、FBQ2496 は必ずフィードバックの危険が高い、個別の音声経路にインサートします。これによって対応するチャンネルインサートに接続されている、フィードバックの発生し易いボーカルマイクの音声を FBQ2496 で処理することができます。

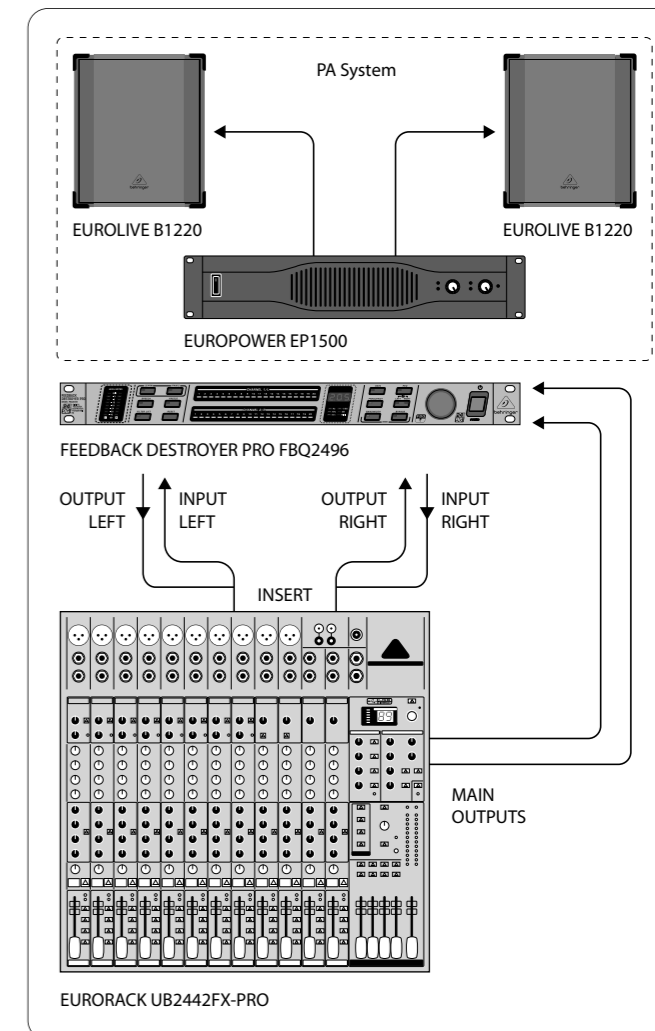


図 5.2: チャンネルインサートおよびサブグループインサートに接続された FEEDBACK DESTROYER PRO

- ◇ マイク音声の処理を FBQ2496 とコンプレッサーを同じチャンネルインサートに接続して行う際は、FEEDBACK DESTROYER PRO は必ずコンプレッサーの前段に接続してください。


ミキサーのサブグループが独自の入力接続によって処理されると、FBQ2496 を最適に接続することができます! 再カップリングにとって危険なチャンネル (例えば、全ての歌唱用マイク) をサブグループに置いてください。すると、危険でない信号 (例えば、ライン信号、弱いレベルの楽器用マイク) は妨害されずに通過できます; 危険なマイクチャンネルは監視されます。

ミキサーがサブグループ挿入接続を処理できない場合、FBQ2496 を以下のように接続することをお勧めします。サブグループの出力を FBQ2496 の入力と結合します。対応する出力は、ミキサーチャンネルの自由なライン挿入かまたはミキサーの Aux Return 入力と接続されます。FBQ2496 の両方のチャンネルが接続されない限り、FEEDBACK DESTROYER PRO の二つ目のチャンネルは、他の目的のために (例えば、チャンネル挿入における使用) 自由に使用できます。

5.3 スタジオで使用する FBQ2496

FBQ2496 の柔軟な校構成により、スタジオにおいてもまたは家庭での録音において使用することはとても意義があります。FEEDBACK DESTROYER PRO をオーディオチャンネルごとにフルパラメータのイコライザーを 20 個までパラメータ EQ モードで使用できます。簡単な信号処理から音楽信号の全体的な操作まで全てが可能です。例えば、FBQ2496 をスタジオ傍受の補正のために使用するまたはミキサーチャンネルにおける EQ のサポートのために使用することができます。これらがしばしばセミパラメータ的にのみ敷かれるからです。

6. 調節

FBQ2496 を正しく調節するように常に注意してください! そうすれば、FBQ2496 は、うまいことフィードバックを抑制することができます。そのために、LEVEL METER 表示  を使用してください。最上位の Clip-LED は、全く点灯しないはずで、Clip-LED が常時点灯しないようにしてください。

とても低いレベルでは、音楽は強弱製を失い、その結果、変に感じさせる力の無い静かな音となります。FBQ2496 の変換機を調節するかなり高いレベルでも、絶対避けられるべきです。デジタル式のゆがみは (アナログ式と異なり) かなり不快なものです。ゆがみが徐々にではなく突然現れるからです。

7. MIDI 制御

MIDI は、“Musical Instrument Digital Interface” (楽器音をデジタルデータとして記録するための統一規格) の略称です。その際、問題となるのは、様々な機器—楽器、PC、ドラムコンピュータ、効果装置などの伝達を可能にする「言葉」です。それゆえ、機器のパラメータは、特定の時点で自動的に変更できます。

このコミュニケーションを可能にするために、以下のような前提が満たされなければなりません:

- 全ての機器のケーブル接続は正しくなければなりません。
- 機器、マスターは、一つ以上の MIDI チャンネルに関する MIDI 情報を送ります。制御情報を受け入れる機器、スレーブは、情報を受け取ることができるように、正しい MIDI チャンネルで調節されなければなりません。
- 伝達された制御情報は、機器により理解されなければなりません。

7.1 MIDI 接続

機器の側面にある MIDI 接続は、国際的な規格 5-Pol DIN ソケットで装備されます。FBQ2496 を他の MIDI 機器と接続するためには、MIDI チャンネルが必要となります。通常、商慣習上の予め規格化されたチャンネルが使用されます。MIDI ケーブルは 15 メートル以下のものを使用しましょう。

MIDI IN: MIDI コントロールデータの受信用。受信チャンネルは SETUP メニューで設定します。

MIDI THRU: MIDI THRU ジャックからは受信された MIDI 信号を未処理のまま取り出すことができます。これによって複数の FBQ2496 を連結することができます。

MIDI OUT: MIDI OUT からは接続されているコンピューターまたは他の FBQ2496 にデータを送ることができます。伝達されるのはプログラムデータと信号処理のためのステータス情報です。

◆ MIDI ケーブル配備では、磨耗が生じてはなりません。つまり、マスター機器は、制御情報だけを送り、スレーブ機器 (より多く存在する) がそれを受け取ります。使用上のケースに応じて、2、3 の機器は、マスターまたはスレーブとして動作します。

7.2 MIDI を有効または無効にする

機器の MIDI 機能が無効となりうる場合、2、3 の使用例においては快適である。つまり、機器は、確かに MIDI 制御データに多く反応するが、にもかかわらず到着する信号は研磨されます。

FBQ2496 において、機器が MIDI 命令に反応できるかどうか調節できます。

◆ MIDI が FBQ2496 で無効となる場合でも、MIDI 信号は、機器により研磨され、ソケット MIDI THRU に隣接します。

1. 同時に BANDWIDTH および BYPASS を押してください。MIDI メニューは、ボタンと付加的に MIDI-LED の両方の LED がディスプレイ上で点滅する場合に、有効となります。
2. BANDWIDTH ボタンを押すと、MIDI は、回転式ハンドルによって有効または無効にされます。MIDI 接続: オン MIDI 接続: オフ
3. 任意のボタンを押して、メニューを離れてください。

7.3 MIDI チャンネル

MIDI チャンネルを使えば、MASTER から 16 種の異なる情報を、それぞれ各チャンネルを使用して転送できるようになります。スレーブは、規定された情報だけを維持するように対応するチャンネルに割り当てなければなりません。

1. 同時に BANDWIDTH および BYPASS を押してください。MIDI メニューは、ボタンの両方の LED と付加的に MIDI-LED がディスプレイ上で点滅する場合に、有効となります。
2. BANDWIDTH ボタンを新たに押してください。MIDI チャンネルが回転式ハンドルを使用して調節されます。ディスプレイにはチャンネル番号が以下のように表示されます: c 1, ... c 14, c 15, c 16。
3. 任意のボタンを押して、メニューを離れてください。

7.4 MIDI コントローラ

個々の 16 MIDI チャンネルについてとても多くの様々な情報が流れます -例えば、音の高さ、タッチの強さおよびいわゆるコントローラ—。

コントローラは、命令 (例えば、楽器、音量、バランス、足のペダルの位置) で、場合によっては、より正確に指定される必要があります。128 の異なるコントローラが確認できます。コントローラに特定の番号 (0-127) を割り当てるために、確かに 2,3 の標準 (0 = バンク選択, 7 = メインボリューム) はありますが、決まった基準はありません。様々な MIDI 機器は、同じコントローラ番号の場合によっては色々と反応します。

FBQ2496 が正確に調節できるように、どんなコントローラの番号と個々のパラメータが影響されるのか知っておくことは重要なことです。

パラメータ	制御番号	可能な値	
ケーブル	10	0 1 2	左 右 ステレオ (左右両方)
フィルター	11	0 : 19	フィルター 1 から 20 までを個々に選択できる。
シングルショットフィルターの数	12	0 : 20	フィルターは 0 個、1 個またはそれ以上 (20 まで) 選択できる。
パラメータフィルタの数	13	0 : 20	フィルターは 0 個、1 個またはそれ以上 (20 まで) 選択できる。
中間周波数 (大まかな調節)	14	0 : 75	20 Hz : 20 Hz 周波数の 対数による 調節
中間周波数 (細かい調節)	46	0 - 15 16 - 31 32 - 47 48 - 63 64 - 79 80 - 95 96 - 111 112 - 127	8 段階で予め調節された大まかな中間周波数 (コントローラ 14) はより細かく調節できる。一つの段階の全ての数はそれ自体の周波数を提供する。
帯域幅	15	0 : 24	1/60 オクターブ : 10 オクターブ
増幅 / 減少	16	0 : 81	-36 dB : +15 dB
SPEECH	17	0 1	オフ オン
FILTER LIFT	18	0 1 2 3 4 5	オフ 1 min 5 min 10 min 30 min 60 min
BYPASS	19	0 1	オフ オン
LEARN	20	0 1	オフ オン
FREEZE	21	0 1	オフ オン
PANIC	22	0 1	オフ オン

タブ 7.1: FBQ2496 のコントローラ機能

8. インストール

8.1 留め金に取り付ける

FBQ2496 は、19 インチの留め金に取り付けるためにピッチの単位 (1U) が必要です。約 10 cm の奥付けをリヤサイドの接続のために開けておくように気をつけてください。

ラック取り付けの際は、M6 に取り付けるためにねじとナットを使用してください。

十分な換気に気をつけてください。そして、機器の加熱を防ぐために、お持ちの FEEDBACK DESTROYER PRO を例えば最終段階で取り付けないようにしてください。

8.2 オーディオ接続

BEHRINGER FEEDBACK DESTROYER PRO のオーディオ入力出力は完全に対称に組み立てられます。他の機器と共に対称の信号の導入を作る可能性があるならば、最大の障害信号を補正できるように使用するべきです。

MIDI 接続は、(IN/OUT/THRU) 標準となった DIN プラグの結合のために行われます。データ転送は電位なしでオプトコプラーのために行われます。

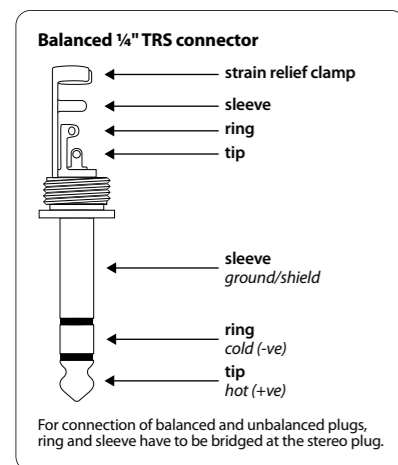


図 8.1: 6,3-mm ステレオジャックソケット

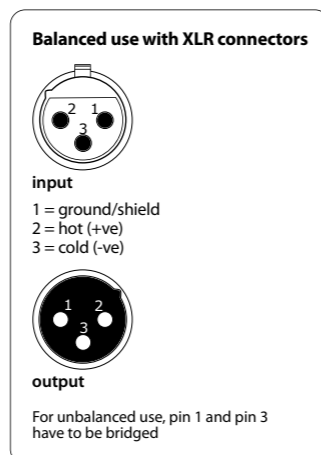


図 8.2: XLR ソケット

◇ 機器のインストールとサービスは、必ず専門家だけが行うように注意してください。インストールの間そしてその後も操作する人は、常にアースするように注意してください。さもないと、静電気の漏洩によりシステムの特徴が損なわれる可能性があるからです。

9. テクニカルデータ

Audio inputs

Connections	XLR and 1/4" TRS stereo connector
Type	electronically balanced input
Input impedance	approx. 20 kΩ balanced
Nominal input level	-10 dBV / +4 dBu (adjustable)
Max. input signal level	+20 dBu at +4 dBu nominal level, +6 dBV at -10 dBV nominal level typically -40 dB

Audio outputs

Connections	XLR and 1/4" TRS stereo connector
Type	balanced
Output impedance	approx. 200 Ω balanced
Max. output level	+20 dBu at +4 dBu nominal level, +6 dBV at -10 dBV nominal level

Bypass

Type	Relay, hard bypass in case of power outage
------	--------------------------------------------

System information

Frequency response	<10 Hz to 44 kHz
Dynamic range	107 dB
THD	0.007 % typically @ +4 dBu, 1 kHz, amplification 1
Crosstalk	< -100 dB @ 1 kHz

MIDI interface

Type	5-pole DIN connectors IN/OUT/THRU
------	-----------------------------------

Digital processing

Converter	24 Bit / 96 kHz
Sample rate	96 kHz

Parametric equalizer (PEQ)

Type	max. 20 independent, fully parametric filters per channel
Frequency range	20 Hz to 20 kHz
Bandwidth	1/60th to 10 octaves
Possible value range	+15 to -36 dB

Feedback Destroyer (FBQ)

Type	digital signal analysis for feedback recognition purposes
Filter	max. 20 digital notch filters per channel
Frequency range	20 Hz to 20 kHz
Bandwidth	1/60th octave
Possible value range	0 to -36 dB

Display

Type	3-digit numeric LED display
------	-----------------------------

Power supply

Mains voltage	100 - 240 V~, 50 - 60 Hz
Power consumption	approx. 10 W
Fuse	T 1 A H 250 V
Mains connector	Standard receptacle

Dimensions/weight

Dimensions (H x W x D)	approx. 44.5 x 483 x 217 mm (1 3/4 x 19 x 8 1/2")
Weight	approx. 2 kg (4.4 lbs)

BEHRINGER is constantly striving to maintain the highest professional standards. As a result of these efforts, modifications may be made from time to time to existing products without prior notice. Specifications and appearance may differ from those listed or illustrated.

Dedicate Your Life to MUSIC